

和歌山教区子ども報恩講□1  
 阿弥陀さまと私□2  
 新・祖蹟点描□3  
 青色青光□4  
 別院報恩講で通夜布教□6  
 伝灯奉告法要にぎわう□8  
 響流十方□10  
 つれもて聴こら□12



『紀伊国名所図会』に描かれた江戸時代後期の響森御坊

2017年(平成29年)  
 1月1日  
 第111号

発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 TEL(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>



**キッズサンガ**  
 HONGWANJI  
 子ども報恩講  
 第28回

「ご縁づくり」  
**キッズサンガを**  
**さらに**



四回し大会

# 阿彌陀さま

## ハウツー仏事と私

**式** 帰敬式とは、阿彌陀さまと宗祖親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚を新たに、お念仏申す日暮らしを送ることを誓う儀式です。その式中に、剃髪になぞらえ、受式者の頭に剃刀を当てることから「おかみそり」とも呼ばれています。

**⑬ 帰敬式** 帰敬式とは、阿彌陀さまと宗祖親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚を新たに、お念仏申す日暮らしを送ることを誓う儀式です。その式中に、剃髪になぞらえ、受式者の頭に剃刀を当てることから「おかみそり」とも呼ばれています。

**法名とは** 帰敬式を受けると、ご門主から「法名」を頂きます。「法名をいただくということは、み教えに生かされて生きていくことへの決意をあらわす名をいただくことです」「それは、私の生きかたを問いただすこと、私法をよびどころとした生きかたへと転換する契機であり、

決して死後の名を受けるということではありません」と、『浄土真宗必携 み教えと歩む』に示されています。**法名は生前に頂く** 法名は亡くなってから頂くものと思っておられる方がおられますが、本来は、ご自身が帰敬式を受けて、ご門主から法名を頂くものです。ただし、帰敬式を受けずに亡くなってしまわれた場合、所属するお寺の住職に法名を付けていただきます。**法名は「釋○○」とし、**

「釋」の字を冠するのは、仏教を開かれた教主・釈迦牟尼世尊(お釈迦さま)の弟子、つまり仏弟子となったことを表す名乗りです。誤って戒名と言われる方もいますが、他の宗派のように、戒律を受け、戒を守る

昨年1月。御正忌報恩講中の帰敬式。当日行われた本山成人式参加者も揃って受式(本願寺新報社提供)



## 法名は仏弟子としての名乗り

### おかみそり受け 門徒の自覚新た

り善根功德を積むことを誓うという意味はありませんので、戒名とは呼びません。2008年4月からは、法名は漢字二字と規定されています。ですから法名の

後に、男性なら居士・信士、女性なら大姉・信女、子ども場合は童子・童女・孩子・子女などの位号も一切付けませんし、付けてはいけません。なお、この規定

がなされる以前には、女性の法名は「釋尼○○」としていましたが、現在では性別に関係なく、釋○○です。また、現在は自分が希望する法名(内願法名)を受けられることもできます。

**帰敬式の流れ** ご門主(またはお手代わりの人)が入堂され、「南無帰依仏」「南無帰依法」「南無帰依僧」の三帰依文をご門主に続き一句ずつ復唱した後、ご門主から受式者一人ひとりにおかみそりを当けていただきます。代表者はご門主から法名を拝受し、

門徒式章、『浄土真宗必携』を記念の品として頂きます。**昨年度の受式者数** 昨年度の受式者は、1万651人(宗勢要覧2015版)。昨年10月1日からお勤めされている伝灯奉告法要中も、すでに3795人の方が受式され、ご勝縁のなかに浄土真宗の門徒としての自覚を新たにされました。

**受式は1日2回** 帰敬式は、京都の本山・西本願寺において、通常は、毎日朝6時の晨朝(朝のお勤め)後と、午後1時30分から行われています。ただし、法要・行事の都合で行われない日や、時間が変動する場合もありますので、ご注意ください。

**ラジオ放送番組**  
**みほとけとともに**  
 - 西本願寺の時間 -

◆ 毎週土曜日 午前5時50分から  
 - 和歌山放送 (WBS) -

和歌山・串本	1431kHz
田辺・すさみ	1233kHz
橋本・高野山	1485kHz
新宮・御坊	1557kHz

「帰敬文」を拝読。ご門主がご教諭(お言葉)を述べられ、退堂されて終了。

「法名」「帰敬文」と共に、式中に使用した念珠、お尋ねください。

(松本教智・御同朋の社会をめぐす運動)和歌山教区委員長)

受式の冥加金は、成人1万円、未成年5000円。内願法名希望の方は、別途1万円以上の懇志が必要で、この場合は所属寺院を通して、2カ月前までに申し込めます。詳細は所属寺院にお尋ねください。

新

# 祖蹟点描

## 13 比叡山 常行堂㊦

親鸞聖人の内室・恵信尼公がお手紙の余白に記した添え書きの一節によれば、聖人は比叡山で「堂僧」を務めておられたのだという。堂僧とは、文字通りの堂に出仕する僧と読めるが、平安時代末期には、特に常行三昧堂(常行堂)に出仕する僧を指した。

親鸞聖人が比叡山におられた頃は、東塔・西塔・横川にそれぞれ常行堂があったという。親鸞聖人とゆかりの深い横川について言えば、当時この地は青蓮院門跡が管理していたことから

青蓮院の記録や伝承を集めた『門葉記』に、横川の諸堂とそれに所属する僧の職名および人数の記載がある。それによれば、楞嚴三昧院所属の僧を「供僧」、四季講堂所属を「四季講衆」、法華堂所属を「禅衆」とし、堂僧の呼称は常行堂だけである。そして、常行堂所属の堂僧は14人とある。

堂僧の仕事は、常行堂で不断念仏を行することだ。意が必要なのは、「常行三昧」と称される行には2種類あるということである。一つは天台宗の開祖である天台大師智顛が『摩訶止観』において、止観(実相を觀する智慧)を成就するための行法の形態を坐(坐禅)と行(歩行)の組み合わせにより4種に分類した四種三昧(常坐三昧、常行三昧、半行半坐三昧、非行三昧)の一つとして

の「常行三昧」である。昧」と称される行には2種類あるということである。一つは天台宗の開祖である天台大師智顛が『摩訶止観』において、止観(実相を觀する智慧)を成就するための行法の形態を坐(坐禅)と行(歩行)の組み合わせにより4種に分類した四種三昧(常坐三昧、常行三昧、半行半坐三昧、非行三昧)の一つとして

的な念仏行の方だった。比叡山に常行堂を建立し、不断念仏を伝えたのは、慈覚大師円仁である。慈覚大師といえは『入唐求法巡礼行記』で知られるように、838年(承和5)、45歳のときに入唐し、揚州、五台山、長安などに学び、在唐9年余りにも及んだ。慈覚大師は840年(唐開成5)5月に五台山に参った際、竹林寺で「五会念仏」という歌うがごとき曲調の念仏に接し、のちに長安ではこれをつぶさに学ぶ機会を得たようである。

五会念仏とは、5種の旋律を用いてお念仏などを称えるもので、8世紀後半に活躍した法照が創始した。慈覚大師が将来した法照の『浄土五会念仏略法事儀讚』には、四奉請に続き、お念仏を称えるのに「平声緩」「平上声緩」「非緩非急」「漸急」「四字転急」という5つの唱法が順に記されている。

848年(嘉祥1)に帰山した慈覚大師は、東塔に新たに常行堂を建立。851年(仁寿1)には、「五台山念仏三昧の法を移し、諸弟子等に伝授し、始めて常行三昧を修す」と、慈覚大師伝にある。比叡山の常行三昧は、五台山で行われていた五会念仏を移して始められたのである。

慈覚大師が入滅した翌年の865年(貞観7)には、その遺命に基づき、8月11日から17日まで不断念仏が行じられたと伝えられる。残念なことに、現在では比叡山で不断念仏は行われていない。しかし京都の真如堂と鳥取県の大山寺ではその流れが引声念仏作法として行われているという。

# 堂僧として不断念仏行ずる

これは90日間常行堂にてもり、ご本尊阿彌陀如来の周りをお念仏を称えながら歩く(行道する)もの。

實際、現在も西塔の常行堂では、三年籠山行の僧がこの常行三昧に打ち込んでいる。千日回峰行もそうであるように、これは行者が自ら進んで行うものである。もう一つが、ここで言う不断念仏であるが、堂僧の務めとして親鸞聖人が行じられたのは、こちらの音楽

【参考文献】蘭田香融『平安佛教の研究』(法蔵館)、浅田正博『比叡山時代の宗祖』(2002)(平成14)年度 布教講義講義録(本願寺出版社)所収、道元徹心編『天台一比叡に響く仏の声』(自照社出版)、天納傳中『CDブック声明』(春秋社)



西塔常行堂に親鸞聖人在りし日の姿しのぶ

## 比叡山の常行三昧始修は円仁伝えた五会念仏から

また、不断念仏とは、8月11日から17日(旧暦)の7日間、または一定の期間、僧が交代で絶えることなく阿彌陀仏の名号(南無阿彌陀仏)を称え、また阿彌陀経などを誦誦するものだという。そして、これらのお念仏と誦経には、音楽性豊かな旋律が付けられていた。

この不断念仏のことを常行三昧ともいう。ただし注意が必要なのは、「常行三昧」ともいう。ただし注意が必要なのは、「常行三昧」である。

【本紙編集部】

教区少年連盟

# 子ども報恩講に170人

## 青色青光

### 鷺森別院に 笑顔あふれる



海南高校科学部による実験に興味津々

教区少年連盟主催「第28回子どもの集い」キッズサンガキ子ども報恩講」が昨年12月10日、鷺森別院で開催され、教区内から170人の児童が参加した。

子ども報恩講は、「報恩講のうた」を唱和したあと、今年度で子ども会や日曜学校を修了する6年生6人による献灯献花。続けて、加茂組青蓮寺日曜学校の岡室綾悟くんの調声で「らいはいのうた」をお勤めし、中岡順忍鷺森別院輪番の法話を聴いた。



紙皿まわしで婦人会と交流

中岡輪番は「阿弥陀さまは、私が楽しいときも、つらく悲しいときも、いつでも語りかけ、見守ってくださいています。そのことを私たちに教えてくださった親鸞聖人にありがとうと感謝申し上げる集いです」と語りかけ、子どもたちは、報恩講をお勤めする意味を学んだ。

### 海南組で連研再開、ご門徒22人集う

海南組では昨年11月19日、了賢寺(海南市冷水)を会場に、第3期「門徒推進員養成連続研修会」の開講式が行われ、組内寺院から22人のご門徒が参加した。

開に向け準備、この日の開講を迎えた。

同組では第2期連研が修了後、10年以上休止していたが、松本教智組長を中心に2015年度から連研再

研修会は「連研ノートE」から「私にとって幸せとは何でしょうか」をテーマに中川大城さん(連研中央講師)が問題提起。これを受け参加者が3班に分かれて話し合い法座に臨むなど、新たなスタートを切った。

### 第19回子ども作品展開く

教区少年連盟は、昨年11月24日の鷺森別院報恩講から12月10日の子ども報恩講までの17日間「第19回子ども作品展」を開催した。

の友だちが見守るなか、中岡順忍教区教務所長から表彰状と記念品が授与された。



報恩講中展示された作品

- 書道の部
  - 本願寺鷺森別院賞
  - ▽石田慈
  - 輪番賞
  - ▽森田光法
  - ▽安村帆夏
- 少年連盟特別賞
  - ▽児嶋蒼
  - ▽籠谷彩香
  - ▽間 愛
  - ▽久保瑠美
- 絵画の部
  - 本願寺鷺森別院賞
  - ▽板原顕真
  - 輪番賞
  - ▽田並祐花
  - 少年連盟特別賞
  - ▽谷口弘晃

※敬称略

午後からは、さまざまなお楽しみを堪能した。別院館内では、綿あめ作りや、自分の顔写真が入った缶バッジ作りなど、教区壮年会・婦人会が工夫した企画に、子どもたちは大喜び。別院に笑顔あふれる一日となった。

日高組

# 組報『ひかり』100号発刊記念法座 年3回発行、33年間積み重ね

日高組で昨年12月11日、会場に組報『ひかり』100号発刊記念法座が開催さ

れ、組内僧侶・門信徒80人が出席した。



連研修了者が巡讀し正信念仏偈をお勤め(日高組蓮専寺)



日高組では、組内僧侶が編集委員となり、多くのご門徒に組の教化活動について興味を持っていただき、法座や研修会への参加の奨励になるものを作ろうと、1983年8月1日に組報『ひかり』第1号を発行。以降33年間、年3回の発行を守り続け、2016年11月に第100号を迎えた。

この間、時代の変化とともに紙面のカラー化、ご門徒からの投稿記事やクイズを載せるなど、読者が身近に感じられるように編集方針を見直した。また、ご門徒が自宅に居ながらお法りを聞けるようにと、各寺院が文書伝道に活用できる紙面へと変更が重ねられた。この編集に携わりの試行錯誤することが、日高組の僧侶らの研さんや交流の場に

なり、現在の日高組を支えている。

記念法座は、記念式典と記念法話の2部構成で行わ



1983年発行の『ひかり』第1号

記念法話では、相

## 社会福祉の推進呼び掛ける

和歌山教区が街頭募金とチャリティーバザー

和歌山教区では、浄土真宗本願寺派社会福祉推進協議会和歌山教区支部(社推協)が中心となり、社会福祉への貢献を目的とした歳末助け合い募金とチャリティーバザーを行った。

### ■歳末助け合い街頭募金

昨年12月1日の歳末助け合い街頭募金では、社推協の呼び掛けに応じた教区内僧侶・門徒54人が、JR和歌山駅中央口と和歌山市駅前広場に分かれ、募金を呼び掛けた。



街頭で募金の呼びかけ

害者の福祉、子どもの福祉などさまざまな社会福祉事業に活用される。

れた。記念式典は、連研修了したご門徒による巡讀で正信念仏偈をお勤めし開式。続いて、第9期門徒推進員養成連続研修会修了者に対し、中岡順忍和歌山教区教務所長が修了証を授与。その後、『ひかり』100号までの歩みが紹介された。

愛大准教授の佐々木隆晃さんが、阿弥陀さまのご本願をできるだけ分かりやすい言葉でお取り次ぎした。記念法座の参加者と運営に当たったスタッフからは、『ひかり』発行に携わってきた先人方のご苦勞をしのび、あらためて今後の末永い発行継続を願うとともに、この日の法縁を共にできたことを喜んだ。

### ■チャリティーバザー

昨年11月27日、鷲森別院報恩講4日目の正午から、社推協が主催して恒例のチャリティーバザーを開催。

本堂の一角には教区内の僧侶、門徒らが出品した衣類や食器などの生活用品が数多く並べられ、この日が参拝奨励日だった仏教婦人会の会員らは熱心に品定め。バザー会場は活気を呈した。この日の売上は、8万7376円。「敬老の日の祝い」や「被災地支援・災害ボランティア活動」などの社推協の活動資金として使われる。

# 通夜布教で親鸞聖人の遺徳しのぶ

## 教区内布教使4人が法話のリレー



真夜中まで本堂でじっくりと法話を聴聞

昨年11月27日、鷺森別院報恩講4日目――和歌山教区布教団が主催する恒例の「通夜布教」が午後9時から本堂で行われた。教区内の布教使4人が出講して、親鸞聖人の遺徳をしのび、持ち時間40分で法話のリレー。

2人の法話が終ったところで、親鸞聖人が小豆が大好きだったと伝えられることから熱々の小豆がゆの接待もあり、参拝者は深夜零時までじっくりと法話を聴聞した。

通夜布教に先立ち午後7時から、これも恒例の親鸞聖人のご一代記『御伝鈔』(註釈版)を力福善智別院職員が朗々と読み上げた。参拝者は1時間、聖人讃仰のお言葉に浸り、あらためて聖人のご生涯に思いをはせた。



通夜布教に先立ち、『御伝鈔』拝読



御伝鈔拝読に引き続き、別院職員が正信偈をお勤め

### 鷺森別院報恩講4日目夜の恒例法座



藤 俊乗師



北條法聖師



岩清水昌子師



蓮下義昭師

### 涙と喜びのほとばしり

蓮下義昭師(海南組西光寺住職)

親鸞聖人は、「願力無窮にましませば罪業深重もおもからず仏智无边にましませば散乱放逸もすてられず」(註釈版聖典606)と、『正像末和讃』に詠われました。

私たちの罪や障りがどんなに深く重くとも、限りない阿弥陀さまのお救いの力は、少しも重くないぞ、軽々と抱えあげざる、とはたらき続けてくださる。さ

親鸞聖人が晩年にお書きに「ただ念仏のみぞまことにしておはします」(同854)と頂かれた、聖人の涙と喜びのほとばしりです。

『正像末和讃』の「正像末浄土和讃」58首の最後は、「如来大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし師主知識の恩徳もほねをくだきても謝すべし」(同610)と、仏祖へのご恩報謝を声高らかに勧めて締めくくられています。

心が常に浄土に「居す」というのは、一体どのような意味なのでしょう。それは私がお念仏を喜ぶことによって、仏さまのようないふをする身になるということではありません。この世の日々の生活の中で、自分の命の在り方を浄土の教えに尋ねていくということではないかと思えます。

仏さまの願い、教えに自分の命の在り方を聴き続けていく生活を営むということが、お念仏を喜ぶ私たちの姿なのです。

### 私の命の在り方に気づく

岩清水昌子師(海南組西方寺住職)

通夜という、葬儀の前日に行うお勤めなどの儀式としての通夜を思い浮かべます。しかし、その儀式だけが通夜ではありません。本来は夜を通して「なつた方をしるび、私たちの命のかえっていく所、私たちの命を引き受けてくださる阿弥陀如来さまのご恩徳を語り合い、私たち自身が命の在り方に気付いていくというのが、通夜の本来

親鸞聖人が門弟に与えられたお手紙の中で、善導大師のお言葉を引用し解釈された次のような一文があります。

――「信心の心とは、その心すでにつねに浄土に居す」と釈したまへり。「居す」といふは、浄土に信心の心のあるところつねにあり、といふことなり。(註釈版聖典759)

### 信心は真理である

北條法聖師(和歌山北組慶圓寺住職)

浄土真宗の要は信心です。信じるということは、阿弥陀さまの誓いのお心を頂き、ご本願のはたらきによってこの私が浄土に往生を遂げていくということ、感謝の気持ちで深く受け止めることです。

しかし、阿弥陀さまの誓いのお心は、私たち凡夫には見ることができません。その目に見えない阿弥陀さま

まのお慈悲の呼び声が、言葉となってあらわれたのが「南無阿弥陀仏」です。必ず救うという阿弥陀さまのご本願と、私たちの心をつなぎ合わせるもの、それが「南無阿弥陀仏」のお名号です。しかも、称えやすく保ちやすい。

親鸞聖人は、『教行信証』の総序に「難信金剛の信業は疑を除き証を獲しむる真理なり」(註釈版聖典131)と示されました。本願力によって賜った金剛の信心は、疑いの壁を取り除いて、さとの世界へと私たちを導く真理である」と示されています。

恵まれた人生を、阿弥陀さまからまことの信心を頂き、お念仏を申しつつ、心豊かに浄土への道を歩ませていただくこと、これがご開山親鸞聖人のお勧めくださるお念仏の道です。

### お念仏は阿弥陀さまの命

藤 俊乗師(紀南組善福寺住職)

報恩講は親鸞聖人のお仏事であり、今年は754回目の縁となります。心新たに聖人にお礼を申させていたたく大切な縁が報恩講である、お聞かせにあずかることとさせていただきます。

本願寺第3代宗主である覚如上人は『御伝鈔』のなかに、親鸞聖人がいよいよ息を引き取られるときのご様子を、「ついに念仏の息たえをほりぬ」(註釈版聖典1059)と記されました。

お念仏というのは、私が舌を動かし、喉を震わせて出す声であります。ところが覚如上人は、お念仏は息であり、命そのものであるとお示しくださいました。

お念仏は私が口で称えて、私が耳で聴く声であります。しかし、その声は阿弥陀さまが声の仏となって私に至り届いてくださっている姿

です。つまり、南無阿弥陀仏のお念仏は、阿弥陀さまの命そのものなのです。ですから、お念仏の功德が私に届いてくださったならば、どれだけ煩惱が湧き起ころうとも、浄土往生の障りにはなりません。

阿弥陀さまは「私に任せよ、後生は私が引き受けたぞ」と常にはたらいしてくださっているのです。安心して、共に御恩報謝のお念仏を申す日暮らしをさせていただきます。と思っております。

# 伝灯奉告法要にぎわう

## 初日から32日間で5万67人が参拝

昨年10月1日から西本願寺でお勤めされている「伝灯奉告法要」は、多くの参拝者でにぎわっている。

同11月25日で第4期までの日程を終え、32日間で国内外から約5万67人が、和歌山教区からも22団体、約1243人が参拝。

3月7日からは第5期の法要が始まる。残るは6期48日間。5月31日のご満座まで、にぎわいは続く。

法要期間中、さまざまな協賛行事が行われているが、あまり知られていないのが「記念参拝式」。入学、卒業、就職、金婚式や銀婚式、

還暦や古希などの人生の節目を縁として、どなたでも受けることができる。

式は約30分で、讃仏偈のお勤め、ご門主の特別映像を含む映像鑑賞、法話。特製の記念品も送られる。

法要期間中の月曜から土曜(4月18日を除く)、午

前9時30分、10時30分、11時30分の3回、御影堂で行われており、当日申し込みも可能。詳細は法要行事部。電話075(352)5205。



阿弥陀堂で厳かに仏前結婚式



御影堂で家族一緒に初参式

## 記念参拝式はいかが



当日申し込みも可能な記念参拝式



国宝飛雲閣での慶讃茶席



鐘楼で梵鐘つき体験

### 伝灯奉告法要 専如門主ご親教

仏教は今から約2500年前、釈尊がご世を開き

て仏陀となられたことに始まります。わが国では、仏

教はもともと仏法と呼ばれていました。ここでの法

とは、この世界と私たち人間のありのままの真実とい

## 「念仏者の生き方」

昨年10月1日の伝灯奉告法要初日、専如門主が御影堂でご親教を述べられた。※「本願寺新報」第3249号から転載

うことであり、これは時間と場所を超えた普遍的な真実です。そして、この真実を見抜き、目覚めた人を仏陀といい、私たちに苦悩を超えて生きていく道を教え

てくれるのが仏教です。仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を「諸行無常」と「縁起」という言葉で表します。

(次ページへ続く)

※この面の写真はすべて本願寺新報社提供

(前ページから続く)

「諸行無常」とは、この世界のすべての物事は一瞬もとどまることなく移り変わっているということであり、「縁起」とは、その一瞬ごとくすべての物事は、原因や条件が互いに関わりあって存在しているという真実です。したがって、そのような世界のあり方の中には、固定した変化しない私というものは存在しません。

しかし、私たちはこのありのままの真実に気づかず、自分というものを固定した実体と考え、欲望の赴くままに自分にとって損か得か、好きか嫌いかなど、常に自己中心の心で物事を捉えています。その結果、自分の思い通りにならないことで悩み苦しんだり、争いを起こしたりして、苦悩の人生から一歩たりとも自由になれないのです。このように真実に背いた自己中心性を仏教では無明煩惱といい、この煩惱が私たちを迷いの世界に繋ぎ止める原因となるのです。なかでも代表的

な煩惱は、むさぼり・いかり・おろかさの三つで、これを三毒の煩惱といいます。親鸞聖人も煩惱を克服し、さとりを得るために比叡山で20年にわたりご修行に励まれました。しかし、それほど修行に励もうとも、自

その願い通りにはたらき続けてくださっている仏さまです。この願いを、本願といます。我執、我欲の世界に迷い込み、そこから抜け出せない私を、そのままの姿で救うとはたらき続けていてくださる阿弥陀如来

本願を聞かせていただくことで、自分本位にしか生きられない無明の存在であることに気づかされ、できる限り身を慎み、言葉を慎んで、少しずつでも煩惱を克服する生き方へとつくり変えられていくのです。それ



ご親教を述べられる専如門主(本願寺新報社提供)

らの力では断ち切れない煩惱の深さを自覚され、ついに比叡山を下り、法然聖人のお導きによって阿弥陀如来の救いのはたらきに出遇われました。阿弥陀如来とは、悩み苦しむすべてのものをそのまま救い、さとりの世界へ導こうと願われ、

のご本願ほど、有の難いお慈悲はありません。しかし、今ここでの救いの中にありながらも、その慈悲ひとすじにお任せできない、よろこべない私の愚かさ、煩惱の深さに悲嘆せざるをえません。

は例えば、自分自身のあり方としては、欲を少なくして足ることを知る「少欲知足」であり、他者に対しては、穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語」という生き方です。たとえ、それらが仏さまの真似事といわれようとも、ありのま

まの真実に教え導かれて、そのように志して生きる人間に育てられるのです。このことを親鸞聖人は門弟に宛てたお手紙で、「(あなた方は)今、すべての人びとを救おうという阿弥陀如来のご本願のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという三つの毒も少しずつ好まぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです」とお示しになられています。たいへん重いご教示です。

今日、世界にはテロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関する困難な問題が山積していますが、これらの原因の根本は、ありのままの真実に背いて生きる私たちの無明煩惱にあります。もちろん、私たちはこの命を終える瞬間まで、我欲に執われた煩惱具足の愚かな存在であり、仏さまのような執われない完全に清らかな行いにはできません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心になう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです。

2016(平成28)年10月1日

浄土真宗本願寺派門主

大谷 光淳

# 郷流十方

## 1〜3月の催し

### 本山

- 1月1日 修正会・元旦会
- 1月9〜16日 御正忌報恩講
- 1月15日 65回本山成人式
- 2月7日 如月忌、住職補任研修
- 2月8日 住職補任式
- 3月7〜14日 伝灯奉告法要(第5期)
- 3月17〜23日 春季彼岸会
- 3月28〜4月4日 伝灯奉告法要(第6期)
- 2月1日 ビハーラ和歌山委員会(鷺森別院)
- 2月4〜5日 第3連区門徒推進員実践運動研修会(大阪教区)
- 2月4日 勤式講習会(鷺森別院)
- 2月9〜10日 第3連区青年布教使研修会(大阪教区)
- 2月11日 寺族青年連盟研修会(日高別院)
- 2月16日 仏教婦人会連盟清掃奉仕(鷺森別院)
- 2月19日 門徒総代会組活動推進事業(西正寺)
- 2月20日 少年連盟委員会(鷺森別院)
- 2月21日 第3連区ビハーラ研修会(鷺森別院)
- 2月22日 布教団連続法座(鷺森別院)
- 2月28〜3月1日 門徒総代会役員研修(京都)
- 3月4日 勤式講習会(鷺森別院)

### 和歌山教区

- 1月17〜19日 寺族女性会研修旅行(台湾)
- 1月22日 門徒総代会剪定奉仕(鷺森別院)
- 3月4〜5日 得度習礼講習会(鷺森別院)、第3ブロック仏教壮年会連盟連絡協議会(京都)
- 3月18日 仏教壮年会連盟理事会(鷺森別院)

### 教区内各組

#### 和歌山組

- 1月27日 寺族女性会新年会(未定)
- 2月未定 寺族女性会例会(教應寺)
- 3月未定 寺族女性会例会(専光寺)
- 3月未定 組実践運動推進協議会(未定)

#### 和歌山西組

- 1月15日 第16期門徒推進員養成連続研修会①(浄福寺)
- 1月25日 寺族婦人会例会(会場未定)
- 2月5日 組内会(西往寺)
- 2月初旬 仏教婦人会役員会(法専寺)
- 2月中旬 門徒総代会研修会(万福寺)
- 2月下旬 仏教壮年会研修会(浄福寺)

#### 和歌山北組

- 1月8日 第4回組内会(慶圓寺)
- 1月19日 寺族新年会(萬波)
- 1月28日 第12期門徒推進員養成連続研修会④(正恩寺)
- 2月4日 組実践運動推進協議会(教願寺)、和歌山北組新年会(未定)
- 2月26日 第5回組内会(慶圓寺)
- 3月4日 第12期門徒推進員養成連続研修会⑤(正光寺)

#### 加茂組

- 2月25日 加茂組キッズサング(西福寺)

### 日高別院の催し

- 元旦会 1月1日午前0時30分ごろ(除夜の鐘終了後)から新年最初のお勤めである元旦会を本堂で。

#### 海南組

- 2月未定 坊守会(未定)
- 1月21日 第3期門徒推進員養成連続研修会②(光徳寺)

#### 有田南組

- 1月未定 組内会(称念寺)
- 3月下旬 組仏教婦人会連盟総会・研修会(教蓮寺)

#### 有賀組

- 1月28日 実践運動人権啓発推進僧侶・寺族研修会(了賢寺)
- 3月9〜10日 伝灯奉告法要団体参拝第2班Bコース(本願寺・山中温泉)
- 3月10日 伝灯奉告法要団参第2班Aコース(本願寺)
- 3月25日 第3期門徒推進員養成連続研修会③(西法寺)

#### 伊那組

- 2月未定 実践運動推進僧侶研修会(未定)
- 2月5日 組実践運動推進協議会(円照寺)
- 3月5日 門徒総代会総会・研修会(大光寺)

### 敬弔

- 吉田廣子(和歌山東組正善寺・前坊守) 11月1日

正信偈をお勤め後、中岡順忍輪番が年頭あいさつ。  
 春季彼岸会・御坊市日高郡戦傷病没者追悼法要  
 3月22日、午後1時30分から春季彼岸会が勤修され  
 御坊市日高郡戦傷病没者追悼法要を併修。  
 (本願寺日高別院 御坊市御坊100)

# 別院報恩講に合わせ、サククス演奏会

## チャリティーコンサートで 熊本地震災害に支援の輪

昨年11月26日、鷺森別院報恩講3日目夜、別院本堂を会場に、熊本地震災害支援の輪チャリティーコンサート「なごやかな和サクソフォ演奏会」が開催された。

和歌山にちなんだ「みかんの花咲く丘」のサククス七重奏や、「涙そうそう」などよく知られた曲の演奏子どもから大人まで楽しめる「爆笑曲当てクイズ！」と、集まった約50人の参加者は、時間の経つのも忘れて楽しんだ。代表を務める長谷川義則さん(海南組安養寺住職)自身のサククス演奏やトークもコンサートに花を添えた。

このコンサートは、サククスの音色が心優しく和やかに響くように、音楽を通して熊本地震災害への支援の輪がさらに広がるようにと願い、わかやまワッパプロジェクトが主催。

この日集まった募金8万4051円は、浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金「平成28年熊本地震一災害義援金に寄託された。



和やかなサククスの音色が参加者を魅了した

わかやまワッパプロジェクトは、2004年に海南組安養寺の寺子屋わっぱ塾に集まった子どもと保護者たちで音楽演奏会を行ったのが始まり。2013年からサククス奏者本多俊之氏と共演を行うなど、広く活動を行っている。

## 宗会議員決まる

任期満了に伴う宗会議員選挙が行われ、和歌山教区では下記の方が選出された。

僧侶宗会議員  
荻野昭裕さん  
(海南組浄國寺住職、61歳)



門徒宗会議員  
内田孝さん  
(和歌山組本弘寺門徒、75歳)



昨年12月12日、教区選挙管理委員会より宗会議員当選状をいただきました。皆さまのご指導ご協力により、2期8年宗会議員を務めさせて頂き、このほど3期目になります。益々身の引き締まる思いです。

現在、宗門総合振興計画推進事業に「宗門の基盤づくり」が掲げられ、過疎問題に取り組んでいます。地域によりそれぞれ事情が異なり、困難な問題が多義に渡りますが、丁寧かつ迅速に同朋教団としての責務を遂行したいと考えています。

非常に難しい問題が山積していますが、精一杯務めさせていただきます。

昨年12月14日に2期目の門徒宗会議員に選出頂きました。1期目初日、特別宗会でご門主は「宗会は、宗門の護持発展に責任を負って協議、議決する機関」であるご教示くださり、その責任の重さに身も心も引き締めて、様々な協議で意見を述べてまいりました。

過疎化の波が全国に広がる一方で、宗門活性化の様々な試みが成果を表しつつあり、お寺の活動が一般紙の紙面を飾る事例も増えています。「浄土真宗のおみのり」を次の世代に伝えるために、先輩方のご指導を仰ぎながら誠心誠意務めたいと考えています。

### 鷺森別院の催し

#### ■元旦会

1月1日、元旦会をお勤めする。午前7時から本堂で正信念仏偈行譜をお勤め引き続き書院で、中岡順忍輪番が年頭のあいさつ。その後、お供えしたお酒を参拝者に振る舞うご流盃の儀が行われる。

#### ■春季彼岸会

3月19日から21日の3日間、春季彼岸会をお勤めする。毎座、午後1時30分から。布教使は藤真照師(滋賀県甲良町・浄覚寺)。

#### ■常例法座

1月15、16日、村上元師(島根県津和野町・妙壽寺)。2月15、16日、濱畑僚一師(高槻市東五百住町)。

#### ■第13回孫市まつり

3月26日(日)、鷺森別院と周辺を会場に、孫市の会が主催する恒例の「孫市まつり」が開催される。(本願寺鷺森別院 和歌山市鷺森1番地)

#### 常見寺)

3月15、16日釋迦浩爾師(滋賀県高島市鹿ヶ瀬・淨願寺)。毎座、午後1時30分から3時30分。

# つれもて 聴こら

## お念仏のみ教えを頂き もう迷うことない身に

とができません。そこへたまたま海を漂ってきた查がぶつかって、亀はもがいているうちに木に乗り上げて



### 岩本孝樹

皆さんは自力の修行をしたことがありますか。私は真宗の寺院に生まれたので、小さい時からお念仏のみ教えの中で育てていただきました。おそらく皆さんも自力のみ教えを経験してから他力

のみ教えに出遇われたのではなく、いつの間にか気が付けば、他力のお念仏に出遇われたという方が多いのではないのでしょうか。

親鸞聖人がまだお若いころに自力のご修行をなさったということは、私たちに代わって自力の修行をすべとしてくださったと味わうこともできるでしょう。一度も自力の修行をしたこと

## 今、<sup>あ</sup> 遇い難い仏縁に遇う

指して泳いでいきます。ようやく海面に出ましたが、この亀は目が甲羅の下に付いていて太陽を見るこ

とができませんでした。すると大風が吹いてきて、亀はその波に揺られて查と共にひっくり返ってしまいました。

その時、查の節穴と亀の目がちょうど合わさって、亀はその穴からようやく生まれて初めて太陽の光を見

さまのご縁に遇わせていただくことは、実はこれほどまれなことなのです。親鸞聖人は法然聖人を讃えられたご和讃の中で「曠劫多生のあひだにも出離の強縁しらすりき本師源空いまさずはこのたびむなしくすぎなまし」(『註釈版聖典』596頁)とよろこばれています。お師匠さまである法然聖人に出遇えていなければ、この命もむなしく過ごしてはたはらずです。それが、阿彌陀さまの選択本願のお念仏によって救われると示された法然聖人との出遇いによって、初めて真実のみ教えを聞き、長い間の迷いから出ることができたとよろこばれました。

ご本願に遇わせていただき、もう二度と迷うことなく救いいただきたいのです。遇い難い尊い仏縁に遇いお念仏のみ教えを頂き、やがて命を終える時には、お浄土に往生させていただくのだとお示しく下さいました。ところが、やっこのことで遇わせていただいたこのみ教えではありませんが、私たちは悲しいかな、尊いみ教えをつい忘れてしまつてことがあります。それでも阿彌陀さまは、私に忘れてもいいよ大丈夫だよと、私が覚えていようが忘れていようが、そのようなことは問題にせず、間違ひなく救い取って浄土に迎え、この私を仏と成るよう導いてくださるのです。遇い難いご縁を喜びつつ、阿彌陀さまの尊い御手のなかに守られ、育てられているこの私の命です。ただただお念仏させていたくださるばかりです。

(奈良市杏町・常蓮寺)  
11月28日の鷲森別院報  
恩講で満座の法話から